

1 / 2 2 定例会

2022/01/22

■2021 年度の振り返り

1. 主な動き
 - ・北山公園整備基本計画の検討（市）
 - ・市民による生き物調査（プレ調査）の実施 →生物多様性地域戦略の策定に向けて（市）
 - ・SAYAMA HILLS DAY への参加
2. 活動方針ごとの振り返り

■2021 年の活動方針 凡例；⇒○できた、ほぼできた △一部できた ×できなかった

□新型コロナウイルスによる感染防止対策

- ・各イベントは参加者の安全を第一に考え、決して無理をして開催しない。開催する場合には感染防止対策を講じた上で実施する。 →当面、少人数が参加するイベント（北山いきものクラブや川そうじなど）を中心に実施。菖蒲まつりや北山わんぱく夏まつりが中止の場合には、北山いきものクラブを実施（6月、8月） ⇒○
- ・Zoom 等を活用したオンライン会議など、web の活用を検討していく。 ⇒×

□全体的に配慮していく事項

- ・できるだけ多くの人に声がけするなどを通して組織の更新を図っていく。特に入会したばかりの人、入会の可能性の高い人へのフォローを徹底する（声がけ、役割を担ってもらうなど） →当面、4月の北山いきものクラブや、初回の北山小土曜講座からフォローを徹底していく。 ⇒△
- ・活動の輪を広げていくために関係する他団体との連携を模索していく ⇒×

□各論

1. 北山公園関係

- ・(新規)「東村山市公園のあり方」報告書を踏まえた施策を注視（北山公園にバーベキュー施設の設置など）。→当面、情報収集を行った上で個々の対応策を検討していく。 →市予算案では「公民連携手法を用いた公園施設の有効活用の検討（予算額：248万7千円）と北山公園整備事業（予算額：948万4千円）→多様な生物が生息し、豊かな自然に気軽に触れ合える公園として整備を進めるとしている。 →「北山公園整備基本画策定業務委託 4百万強」についても情報収集を行った上で対応策を検討。 ⇒フォロー中
- ・川端会議への対応（今後も開催が見送られる場合には、他の手段での市との意思疎通が必

要) ⇒○

- ・(継続) 市民田んぼ活動と連携
 - ・(継続) しょうちゃん池への浚渫土の導入の検討、協議 ⇒×
 - ・(継続) しょうちゃん池水際の在来植物植生帯の造成や池奥の湿地環境の改善(しょうちゃん池(南側)から導水すること等) ⇒△
 - ・(継続) 北山公園に通年で水(流水と止水)を確保、在来生物等のモニタリング調査 ⇒△
2. 北川流域関係
- ・(新規) 生物多様性東村山戦略の具体化を働きかけていく →北川かっぱの会でいきもの調査を中心に具体策を検討の上、市に提案していく方向とする ⇒○
 - ・(継続) 宅部池の動向を注視(狭山公園生物多様性保全利用計画に基づく護岸の湿地化等の実施設計の内容など) ⇒○
 - ・(継続) 北川の落差工解消プロジェクトを推進していくために、基礎調査となる流量調査を継続していく ⇒×
3. 外来生物の防除関係
- ・(継続) 市と外来種防除についての協定を継続して締結していく ⇒○
 - ・(変更) 上記協定に基づき、北山公園内の外来種の捕獲を継続していく(活動期間を短縮し4月～10月実施、新たに携わる人の確保) ⇒△
 - ・(新規) トレイルカメラ等を設置し実態を把握した上で、アライグマの防除対策を検討していく →調査結果は市環境課にも知らせていく ⇒△
 - ・(継続、コロナの状況を見て判断) トウキョウダルマガエルを守ろう!キャンペーンや北山わんぱく夏まつりでのウシガエル捕獲大作戦の実施 ⇒×
4. 環境調査関係
- ・(新規) 北山いきものクラブや土曜講座で捕獲した生き物の種類等について記録を残す(記録を一元化していく) →特定の人が記録を一元管理していく ⇒△
 - ・(新規、コロナの状況を見て判断) 上記について、高校生(東村山西高校など)や大学生に調査協力を呼び掛ける ⇒×
 - ・(継続) 魚類調査や外来生物調査、水質調査、ゴミ調査については調査を継続 ⇒○
5. 子供向けのイベントの開催と環境学習関係
- ・(新規) 北山いきものクラブの開催の予備日を設定する。会員予備軍への来場者への声かけを徹底する。 →4月～11月の第2土曜日開催(菖蒲まつりや北山わんぱく夏まつり実施の場合には6月、7月は休止)。予備日は翌日曜日とする(対応可能な人のみで対応) ⇒適用無
 - ・(新規、調整) 北山いきものクラブと土曜講座との開催調整を行う(開催日、人繰りなど。特に9月の北山小魚とり) →北山小土曜講座魚とりは9月の第2土曜日以外で設定。 ⇒適用無
 - ・(継続、コロナの状況を見て判断) 北山わんぱく夏まつりについては午前中中心の開催とし、

さらに合理化を図っていく ⇒適用無

- ・(継続) 小学校の総合的学習への講師派遣については、可能な限り対応していく ⇒○

6. 関係機関との連携

- ・(新規) 市役所については、生物多様性東村山戦略の具体化や生きもの調査の骨子の検討を働きかける。→北川かっぱの会でいきもの調査を中心に具体策を検討の上、市に提案していく方向とする(再掲)。⇒○
- ・(継続) 西武・狭山丘陵パートナーズや八国山たいけんの里自然部会、柳瀬川水系水環境連絡会、トトロのふるさと基金などとはこれまで通り連携していく ⇒○

7. 地域への情報発信関係

- ・(新規) 在来種を守っていくために、FBやブログでの在来種の写真掲載をやめる(HP等に掲載の魚類調査結果やかっぱ通信への掲載、トウキョウダルマガエル保全キャンペーンなどについては従来通りとする)→希少種(ヤリタナゴ、モクズガニ、…)について、web上(特に写真)の掲載はやめる方向とする。⇒○
- ・(継続) 当会の提言内容(生物多様性東村山戦略、外来生物の問題点など)について、様々な媒体を使って情報発信していく ⇒○
- ・(新規) かっぱの楽校の記事をベースとした新たなweb上の企画を検討し、実現させる→次回の定例会で検討を始める ⇒△
- ・(継続) かっぱ通信やFB、ブログ、北山公園内「水と緑の掲示板」などでの情報発信はこれまで通り実施 ⇒○

3. (参考) コロナ禍でのイベント開催状況

活動の種類		実施状況
北川の清掃活動	北川クリーンアップ(年2回)	×
	定例川そうじ(3~12月に月1回)	○
調査活動	水質調査	○
	魚類調査	○
	外来生物調査(北山公園)	○
	ゴミ調査	○
自然体験支援活動	北山わんぱく夏まつり	×
	北山いきものクラブ	△
	小学校の総合的学習の支援	○
	小学校土曜講座の支援	×
	市民田んぼへの作業参加(北山公園・有志)	○
提言活動	生物多様性地域戦略(東村山戦略)の提言	○
外来生物対策活動	外来生物防除活動(北山公園)	○

凡例

○:少人数で実施

△:少人数で一部実施

×:実施せず

■2022 年度に向けて

1. 予想される動き
 - ・公園の指定管理者制度の導入（7月～）
 - ・生物多様性地域戦略の策定
 - ・「東村山市史研究 31 号」に「北川かつぱの会の活動のあゆみと未来に向けて」掲載（3月発行予定）
2. 重点的に取り組むべき事項（素案）
 - ・コロナ対策の継続
 - ・組織の更新
 - ・今後 10 年間の展望（重点的に実施すべき活動など）についてまとめる